

文部時報

昭和六十一年十一月
第一三一六号

特集 文化財の保護と文化の創造 / 国民文化祭

文化財は死んではいない……………三浦 朱門…4

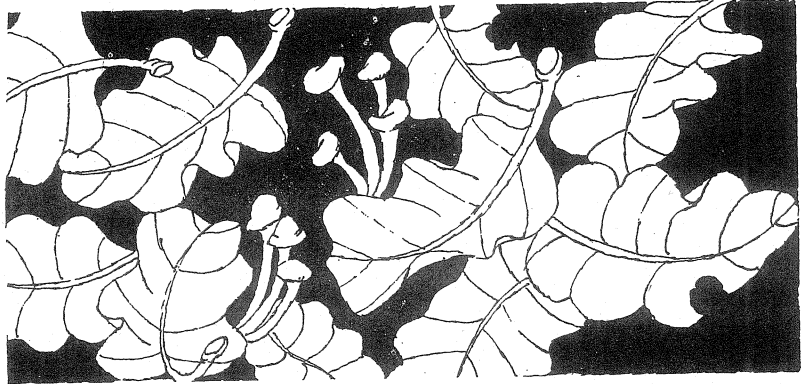
伝統と創造を考える……………
 (出席者) 吾妻 徳彌 / 安達 悦子 / 観世 清和 /
 富山 清隆 / 柳下 規夫 / 藤田 洋 /
 (司会) 草場 宗春……………8

◆論文
 日本文化における伝統と創造……………濱田 隆…24
 埋蔵文化財の保護と考古学の発展……………大塚 初重…30
 子供たちが参加する町並み学習活動……………西村 幸夫…35

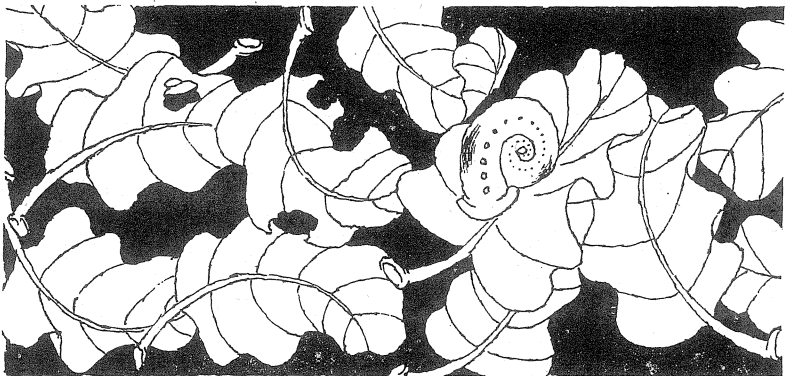
◆解説
 国民文化祭の概要及び主催事業の内容……………文化庁文化部文化普及課
 国民文化祭担当官室……………40

◆エッセイ
 国民文化祭に寄せて……………
 1 日本青年館と民俗芸能とのかかわりについて……………富田 昌宏…44
 2 国民文化祭開催に感謝して……………村上 正治…46
 3 国民文化祭によせて「民謡所感」……………春日 由三…48
 4 「文化」を次代に……………関屋 晋…50
 5 国民文化祭に寄せて……………永藤 信一…52
 6 国民文化祭に思う……………加藤 衛…54
 7 国民文化祭文芸部門について……………水上 正直…56
 8 国民文化祭とサロン・デ・ボザール展……………植村鷹千代…58

学校 地域社会



家庭 手をつなごう



10 9 シンポジウムをフォーラムに……………長田 巖次郎…62
 文化フォーラムについて……………河村 雄次…60

◆説明資料
 1 開会式(総合フェスティバル)について……………文化庁文化部文化普及課
 2 生活文化フェスティバルについて……………文化庁文化祭担当官室…64
 3 閉会式(グランドフィナーレ)について……………文化庁文化祭担当官室…66
 ◆資料
 国民文化祭主催事業等について……………文化庁文化部文化普及課
 国民文化祭担当官室……………70

◆教育改革トピックス
 総会合宿集中審議で活発な論議……………臨時教育審議会事務局…73
 —「入学時期に関する委員会」が発足—

◆文部省のまど
 ●海外教育ニュース
 各州における一九八六年度……………大臣官房調査統計課…89
 主要教育案件(アメリカ合衆国)
 初等学校におけるコンピュータの……………
 利用状況(イギリス)……………
 中学校のPEGC教員資格……………
 を廃止(フランス)……………
 学術審議会が大学の学習期間の……………
 短縮等を提案(西ドイツ)……………
 放送大学学生募集……………88

◆ハイレベル教育専門家会議の開催について……………75
 学術国際局国際企画課…75
 「地方教育費調査」結果の概要……………大臣官房調査統計課…76
 昭和六〇年度体力・運動能力……………
 調査結果について……………体育局スポーツ課…81

◆幼稚園教育の在り方について……………
 幼稚園教育要領に関する調査研究……………
 協力者会議が最終まとめ……………
 初等中等教育局幼稚園課…87

◆文化財紹介
 ●織部松皮菱形手鉢……………(鈴木 煇夫)
 名作シリーズ ●観楓図屏風……………(解説 千野香織…43)

表紙 赤羽根秀一 カット 内部敬生

文化財は死んではいけない

三浦集々

文化財を守ることは、センチメンタリズムや、偏狭なナショナリズムから、伝統を守ろうとするものであってはならない。それはいわば民族の文化を創造するエネルギー源として、しかも使いつくされることのない、資源として守ってゆかねばならないのである。

古代文明の技術では、大軍を動かすのは平原、草原、精々で疎林である必要があった。このような条件を備えた古代オリエント、地中海世界、中国、インドなどに巨大な国家が建設され、日本のように山が多く、全土が深い森林に覆われていた地域では、強力な政権は成立しにくい。アルプス以北のヨーロッパの覚醒が遅れ、蒙古の騎兵がポーランドの線で食い止められたのも、森林の故であろう。米国のベトナムでの失敗は、平原の戦争技術を森林に持ちこんだために違いがない。

平原地帯は金属の発見とともに、大帝国の成立を見、多くの人力、畜力を利用して、巨大な建造物を作った。

素材となったのは、豊富な石材であり、わけても可塑性にすぐれた大理石などの石灰岩である。石造の建築物にあつては構造部分と障壁部分が一体となつていて、壁面の変化に乏しい。今でも南欧に残っているルネッサンス期の建築はしばしば内部は倉庫のように味気ない。

彼らはそこをレリーフで飾った。やがて色タイルや鉱物の利用を知ると、壁面をモザイクで飾るようになる。イスラム世界は具象的な造型を嫌ったから、幾何学模様やコーランの語句のモザイクを作った。

壁面をこのように飾るには、多くの技術者群を必要とし、文明圏以外ではその贅沢は許されない。この代用として造られたのが壁画である。これはモザイクより遙かに安直に壁面の装飾が可能である。それでも壁画にあつては、職人が現場にいなければならぬ。文明圏が拡がるにつれて、ポータブルの壁画・モザイクとでもいふべきものの需要が起つた。それが画を織った絨毯を壁面にかけるにも似たタペストリであり、さらにそれを安直にした絵画だった。

絵画は模様のないキャンバスに少量の絵具をなすただけのもので、タペストリまがいの装飾品になる。これなら個人で製作可能であつた。西洋の美術で個人の作者が確立するのはこの段階からである。絵画はタペストリと違って全壁面を覆うことはできない。壁面の大部分はそのまま残る。そこで絵画と壁面との不釣り合いを処理するために、額縁が発明された。額縁以外でも、ドイツのザクソニア王家が所有したラファエルによるシステイナのマドンナの周囲に、だまし画のような幕や天使が描きこまれているのは、それがどこで飾られるにせよ、壁面との違和感を緩和するためのものであろう。

いずれにせよ、ヨーロッパ建築で構造体が露出していたのは、ゴシック建築だけであつたし、それが発達したのが森林地帯であつたこと、そしてゴシックは森林のイメージの表現であるとされるのは興味深い。彼らはゴシックさえ浮き彫りで埋め尽くした。

一方、日本では手近な建築材料は材木と土であり、その結果、木と壁の建築が主流であった。日本文化の形成に大きな影響をあたえた中国文化も石造建築であったことを思えば、これはあくまでも、日本の特殊性とみることが出来る。木材は可塑性に優れている反面、構造体としては弱い。当然、木造建築にあつては柱や梁は重要な要素として、室内にも露出したし、壁とコントラストを作つて、素朴で心理的に安定感を与える壁面を構成した。水平、垂直の線と力学的安定はそこにいる人を落ちつかせる。この原理は部屋に畳を敷きつめるようになつても、畳の縁という形でくり返される。

日本の建築の大発明は床や違い棚である。このミニアチュアの部屋は、せまい室内に拡がりを与え、その部分を美術、教養コーナーにしたのである。また襖は障壁部分であるとともに、ドアであり、さらにそこに装飾的な画をかくことによつて、外に自然が、というよりも美術的空間が広がっていることを人に暗示した。襖の奥はしばしば収納部で、そこに納められた物によつて、部屋は寝室にも、客室にも自由にその姿を変える。

鉄筋コンクリートは人工の石灰岩である。これは自然の石灰岩より遙かに大きな建築性を持っているが、これは主として、鉄材のもつ構造体としての剛性と弾力による。今世紀のはじめ、力学的原理に忠実な、鉄とガラスによる建築など、構造体と障壁部分が分離した建築が作られるようになる。第二次大戦前に来日して桂離宮に世界最高の建築美を発見したブルーノ・タウトはヨーロッパで鉄骨とガラスの大建築物を設計した、当時の最新流行の建築家だったから、日本の木造建築に新しい意味を発見したのである。

近頃のビル建築を見ると、構造部分と障壁部分がはっきりわかるようなデザインのものが多いし、工法においても鉄骨を組み、そこに別の場所で大量生産された障壁部分をはりつける、というスタイルが目立つ。ビルの間の空間には日本の枯れ山水を思わせるコーナーや、ささやかな植え込みをみることがあるが、これは関西の人が前栽と呼ぶミニ庭園の発想であろう。室内の処理にしても、アルコーブに美術品を置いて、そこに照明をあてた

り、構造体を強調することによつて、安定感をあたえたり、日本建築の影響とまではいわなくとも、われわれが昔から培ってきた美意識にかなうデザインが多い。

近年、日本の建築家が世界的に評価されているのも当然であろう。勿論、この名声は彼らの才能と努力によることは当然としても、日本人として、日本建築に住み、それを利用してきたことが、彼らの建築観に意識的にも無意識的にも作用しているであろうことは疑いないことであろう。

最近、感動したのは法隆寺の木材の組み合わせ技術である。材木と材木を接合させるのに突起部分とそれを受け入れる脛を作るのだが、それを四角にせずに、丸くすることによつて、ねじれや地震の衝撃を、軟らかく受けとめるようになっていふという。また高層ビルの耐震技術も、極端にいえば巨大なビルを浮かした構造にすることによつて、震動を吸収する方法が開発されたという。発想の方向としては法隆寺と高層ビルの耐震構造とは同じである。衝撃に抗するのではなく、受け流すのである。

この原理は自然に対する態度にも現れている。たとえば皇居は、中世の封建時代の城郭の廃墟と自然の中にある。これを維持するための人工は加えられているが、あくまでも自然と美しく整備された廃墟しか見えない仕組みである。人工の構築物によつて力を誇示しようとする世界の権力者の住居やオフィスと比べると、日本の特殊性は明らかになる。

このようにして考えると、日本の古い建築やそれが置かれた環境を保護することは、決して骨董趣味からではない。今日まで守りつたえた古代、中世の日本建築の傑作は、われわれに伝統的な建築感覚を思いださせ、現代建築への無限のアイデアを提供する。文化財の保護は、その意味で過去を向くのではなく、未来を指向する仕事なのである。

次 号 目 次

特集 国語表記四〇年の歩み

文部大臣の所信 第一〇七国会（臨時会）

巻 頭

国語と文化

有光 次郎

座談会

国語表記の現状と展望

—仮名遣い改定を終えて—

（出席者）

林 大・齋賀秀夫
広瀬一郎・村松英子

（司会） 森 正直

論 文

現代表記の沿革と現状

武部 良明

国際化と日本語

野元 菊雄

随 想

国語辞典あれこれ

見坊 豪紀

国語と日本語

宮地 裕

解 説

学校における仮名遣いの指導について

初等中等教育局小学校課

編 集 後 記

▽十一月一日から七日の期間は、教育・文化週間であり、同時に文化財保護強調週間でもありました。十一月二日・三日の連休には、美術館や博物館等へ出かけられた方も多いのではないのでしょうか。
▽私たちに、歴史的な貴重な遺産である文化財を、國民共有の財産として次世代へ引き継いでいく義務があります。そのためには、文化財に対する日常的な保護・保存活動が大切です。
▽その一方で、新しい文化を創造していくことも必要です。「創造」とはまったく新しいものを造り出すことですが、一面においては、先人達が築き、歴史がはぐくんできた「文化」を現代人が理解し、吸収して、現代のものとして後世へ伝えることもいえるのではないのでしょうか。
▽本号の座談会では、伝統芸能に携わる中堅、あるいは新進気鋭の方々にお集まりいただき、「伝統と創造を考える」というテーマで活発な意見を伺いました。若者たちの伝統を受け継ぎ、育て、発展させていこうという情熱が誌面からも伝わってまいります。
▽ところで、第一回國民文化祭は、一月二日から東京都内各所で開催されます。アマチュア活動に全国的な規模での発展の場を提供するとともに、新しい芸能の創造を促し、もって國民生活の文化の充実を図るため祭典です。アマチュア文化の祭典として大きく育つことが期待されます。（政策課）

MESC 61 月刊 「文部時報」 11 月 号 第1316号

著作権
所 有

文 部 省

昭和61年11月10日 印刷
昭和61年11月10日 発行

発行所 株式会社きょうせい

定 価 280円 (〒50円)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)

年間購読料3360円 (〒共)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます

・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にお願いします